

に解釈するののかについては、時代とともに常に批判的に精査していかななくてはならない点である。

林奕含は、小説の刊行後次のような言葉を残してこの世を去っている。「もし読み終わって、かすかな希望を感じられたら、それはあなたの読み違いだと思うので、もう一度読み返したほうがいいでしょう」(『房思琪の初恋の樂園』訳者あとがき、白水社、2019年、263頁)。絶望と深い苦しみの中で書かれた作品ではあるが、今こうして#MeToo運動の時代の文学として取り上げられることで、この作品と文学の可能性に大きな希望を感じられるのは私だけだろうか。(江口真規)

第23回 比較文学研究会

印象記：雑誌『幻想文学』における須永朝彦

茂木謙之介氏は、雑誌『幻想文学』(1982年4月～2003年7月)と須永朝彦(1946～2021)との関わりについて報告した。『幻想文学』は、欧米から東アジア・日本にいたるまでの“東西”、神話から現代小説にいたるまでの“古今”を、「幻想文学」というジャンルとして認識することに寄与した雑誌である。「幻想文学」に相当するカルト的な興味を刺戟する諸作を取り上げ、広く世に紹介し啓蒙する性格をもった。これに多数の多様な原稿を寄せたのが須永朝彦だったという。発表では、須永がこの雑誌とどのようにかかわっていたかを豊富な引用資料をもとに多角的に跡づけた。

須永は、日本の古典を「幻想文学」として評価したことから、同誌の編集後記では「古典さま」と呼ばれたという。同誌での仕事をふまえながら、日本の「幻想文学」の「アンソロジー目録」「通史仕立のカatalog」的な書と自ら述べた、『日本幻想文学史』(1993)を発売した。本書は、「幻想文学」という用語で、日本の「神話」「伝説」から、能や歌舞伎の演目にまで及ぶ「怪奇」「怪談」、そして近代における「探偵小説」「SF」までを照らし出し、「幻想文学」という領域としてカatalog的に提示したのだった。須永には「幻想文学」のテキストを集めたアンソロジーの仕事も多い。須永を幻想文学へ導いた文学者に三島由紀夫や澁澤龍彦がいる。須永の仕事は、「反時代」的な文学観に立ちつつ、古今と東西を包括する「幻想文学」という領域を提示する教養主義的な意義をもったという。

質疑では、少年愛などの耽美的興味を含んだ作品に関すること、ミステリー・SFにまで拡大して「幻想文学」という領域が形成・認知されていった経緯、20世紀後半における政治的な関心やモチーフから逸脱する脱領域的な領域として「幻想文学」は形成されたのではなかったかななどの質問や意見が出された。

日本の近代文学確立期を思い返してみると、坪内逍遙は、「小説(ノベル)」を美術(fine art)として意義づけるにあたり、「荒唐無稽の事物」や「奇怪百出」を排することに特徴づけ、「世の人情と風俗」を写し「平常世間にあるべきやうなる事柄」を「材料」として「趣向」を設けるものとした(『小説神髓』1885～86)。以後、こうした小説観は、現在の社会をアクチュアルにリアルに表象することを重視した文学観を形成することにつながった。そうして規範化した「文学」観に対する反照として、それに収まらない脱領域的な表象として「幻想文学」という領域が顕在化したと、巨視的な見取り図を構想できるだろうか。(山崎義光)

印象記：高村光太郎『智恵子抄』仏訳(TAKAMURA Kôtarô, *Poèmes à Chieko*)の刊行をめぐって

高村光太郎『智恵子抄』のはじめての仏訳が、中里まき子氏の訳によってフランス・ボルドー大学出版会よりこのほど出版された。今回の研究会には、仏訳の過程で深くかかわったボルドー大学のエリック・ブノワ氏もオンラインで参加された。コーディネーターは森田直子氏。

日本比較文学会東北支部 第23回 比較文学研究会

研究発表

・雑誌『幻想文学』における須永朝彦
茂木謙之介

特別企画

・高村光太郎『智恵子抄』仏訳
(TAKAMURA Kôtarô, *Poèmes à Chieko*)の
刊行をめぐって

報告者：中里まき子
報告者：エリック・ブノワ
コーディネーター：森田直子

於：オンライン開催 2021/07/11

会費納入のお願い

皆様の会費の一部は、支部還元金として各支部の運営費に充当されています。支部還元金は各支部会員の会費納入状況に従って算出・支給されますが、一方で本年度の東北支部会員の会費納入率は必ずしもかんばしいものではなく、それに伴い支部還元金の方も減少をきたしています。会員各位におかれましては上記の点につき何卒ご理解をいただき、もし未納の会費がある場合は速やかな納入を心掛けてくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

東北支部・今後の活動予定

最新の情報は、日本比較文学会東北支部のブログ、及び日本比較文学会 web の東北支部のページにて随時更新しております。ご参照ください。

<http://jcla-tohoku.hatenadiary.jp>

<http://www.nihon-hikaku.org/shibu/tohoku.html>

- ・第 24 回比較文学研究会・支部役員会：2022 年 7 月 23 日（土）、仙台開催を予定。
- ・日本比較文学会東北大会・支部総会・支部役員会：2022 年 11～12 月、山形県での開催を予定。

（編集後記）

会報 27 号をお届けします。

会報の発行が遅くなってしまい大変申し訳ありませんでした。会報担当の不徳の致すところで、ご寛恕くださいますようお願い致します。

本号を持って会報担当の任を終えることとなりますが、これまで多く支部会員の皆様に会報の印象記をお寄せいただきました。前日のメール、あるいは当日、会場で執筆のお願いをすることがほとんどだったのですが、皆様いやな顔一つせず、引き受けてくださいました。改めて、御礼申し上げます。

本号に、印象記をお寄せいただいた会員の皆様にも、この場を借りて、御礼申し上げます。

塩谷昌弘

日本比較文学会東北支部会報第 27 号

2022 年 5 月 20 日発行

発行人	森田直子
編集担当	塩谷昌弘
発行	日本比較文学会東北支部
事務局	〒020-0694 滝沢市砂込 808 盛岡大学文学部 塩谷昌弘研究室内